



帝人ソレイユを立ち上げ経営にあたる取締役統括マネージャーの鈴木崇之さん(左)と農業事業部長の升岡圭治さん

黒木忠さん(現・帝人ファーマーリハビリ事業推進班)を誘い、3人で当時のCHO(最高人事責任者)に事業提案して創業に至った。

実は鈴木さん自身もうつ病を発症した過去がある。新規事業のプロジェクトリダーに抜擢された頃だった。心身ともに疲れ果ててそのポジションから離れ、「本社のルール」から外れた喪失感を感じていた頃に出合ったのが農業だった。

「当時住んでいたマンションが畑を持つことで、最初は気晴らしで手伝わせてもらうようになったんです」と振り返る。やがて、農業の魅力にとりまじりとはまった。平日は朝5〜6時に畑仕事をしから出社、週末は農業学校へ通い、会社を辞めて農家になろうと本気で考えていた。

「そんな時、同僚だった黒木さんから、実は『農業と福祉は相性がいいんだよ』『農福連携』という考え方を教えてもらったんです」。農福連携——障がい者が農業分野に従事することで、就労や生きがいの場を提供す

る国を挙げての取り組みだ。従業員が一定数以上の規模の会社は、従業員に占める身体・知的・精神障がい者の割合を2.3%(2026年に2.7%に引き上げ)にしなければならぬ法的ルールがある。基準クリアのため、多くの企業はまず身体障がい者を雇用する。身体障がい者の場合、バリアフリー環境を整備することで他の従業員同様に働くことができるケースも多い。

一方で、知的・精神障がい者の場合は、判断力やコミュニケーション能力にハンディがあるため雇用の難易度が高くなる。

業務内容も、これまでは書類スキャナーやデータ入力といった事務補助業務が主流であったが、近年のDX(デジタルトランスフォーメーション)化の波で、このような単純事務作業は先細る流れにある。このトレンドは鈴木さんが勤めている帝人グループにも当てはまった。

その課題解決に、ピタリなのが農業だった。農業なら障がいのレベルに合わせられる多様な仕事が無尽蔵にある。ポレポレファームでは、胡蝶蘭だけで毎月およそ数百本が出荷されている。日々の水やりや茎を支柱に固定する作業など、多くの人が首を上げてしまいそうな反復単調作業はたくさんあり、主には知的障がいのあるス

タッフが楽しみながらこなしてくれる。会社としては、判断力のある精神障がい者のメンバーとの分業を徹底するなど、人と人の組み合わせに配慮する。その結果、定着率向上や生産性向上など、障がい者にも会社にも「ウィン・ウィン」の成果が得られやすい。

帝人ソレイユの農業事業の売上高は前年比150〜200%で伸び続けているが、目標達成率については、「職場づくり」という面では山の8合目、収益でいえばまだ3合目くらい」と鈴木さん。それでも現在はアレンジメントフラワーにも取り組んでおり、贈られた側、贈った側の双方に喜ばれている。

鈴木さんは、ポレポレファームは福祉事業所ではなく、あくまで事業会社だと強調する。

「企業である以上、『赤字でいいんだ』という雰囲気にはならない。ここで働くみんなが自社や商品に誇りを持つためにもこの意識は大切にしています」

帝人ソレイユ

2019年2月設立。障がい者雇用の促進・安定を目的とした特例子会社。資本金2500万円。本社は東京都千代田区。帝人グループ内で事務補助などを行うオフィスサポート事業と、ポレポレファームにおける農業事業を展開。障がい者の雇用者数は33名(2023年3月現在)。特例子会社初の農林水産省「ソウフク・アワード2021」チャレンジ賞を受賞。ソレイユはフランス語で太陽やひまわりの意味がある。

帝人ソレイユの詳細はこちらから ▶ <https://teijin-soleil.co.jp>



大型ハウス内には丹精込めて育てられた数千本の胡蝶蘭が並び(ポレポレファーム)

帝人 障がい者の能力を引き出す独自経営
特例子会社が農場を運営
主力の胡蝶蘭は市場で高評価

障がい者の雇用率の向上や働く環境の整備は多くの会社で課題となっている。帝人グループの特例子会社「帝人ソレイユ」では、障がいのある社員の特性から能力を引き出し、2019年の設立以降、売り上げを伸ばしている。主力の農業事業を展開している我孫子農場(千葉県我孫子市)でその経営を探った。

**スタッフの才能を生かし
 高品質の胡蝶蘭が誕生**

取引量、取引高ともに日本一を誇る花市場、東京都中央卸売市場「大田市場(東京都大田区)」では、三つの方法でお祝いギフトの定番、胡蝶蘭の取り引きが行われている。

「一つは『競り』。提示された商品に対し、買い手が購入したい品物の数量と価格を提示して落札をする。その前の段階『相対』では、倉庫内にすざりりと並べられた商品に対し、バイヤーが希望価格を貼り付ける。ここで残った商品が、後の競りにかけられる。競りはもちろん、相対にもほとんど出回らず、入荷連絡が入った時点で完売状態になる胡蝶蘭がある。帝人ソレイユが運営する我孫子農場「ポレポレファーム」で生産される胡蝶蘭だ。

「おかげさまで品質の高さが評価されてきました。市場の胡蝶蘭担当者からは、『こんなに詳細な出荷基準書は見たことがありません』と言われます」

同社取締役統括マネージャーの鈴木崇之さんは、「キズ判断基準」と書かれた40ページほどの手作り冊子を片手にこう語る。

冊子には「花びらが透けて見える『軽い変色』といった項目とともに、出荷不可となった胡蝶蘭の画像が添えられている。中には、花びら同士の間で隠れた小さなシミなど、出荷して



胡蝶蘭アレンジメント(上=提供写真)は華やかさが漂う人気商品。食用バラや野菜類(下)なども生産

も誰も気がつかないようなものも含まれている。

冊子を作成したのは、障がいのあるスタッフだ。

「バック障がいを持つスタッフが作成してくれました。彼にはもともと、不安症という不安を感じやすい特性があります。これが品質チェックにおいては『細かな違いにも気がつく』という才能に変わり、この非常に厳しい品質管理マニュアルが完成したのです」(鈴木さん)

現在、この農場には知的障がいや精神障がいのあるスタッフ16名が在籍。知的レベルで言えば小学1年生ほどのメンバーもフルタイム勤務時間11午前7時45分〜午後4時30分で働き、部材の加工や水やりといった反復単純作業を担当するなど、胡蝶蘭の多様な生産プロセスを担う戦力となっている。

**農業には無尽蔵の可能性
 分業で定着率や生産性向上**

帝人が、障がい者雇用を目的とした特例子会社「帝人ソレイユ」を立ち上げたのは2019年2月。鈴木さんが、帝人グループの同僚で、自身も障がいのある子どもを持つ升岡圭治さん(現・帝人ソレイユ農業事業部長)、



農園は千葉県北西部(東葛地域)の特別支援学校農業コース卒業生の受け皿にもなっている